

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年八月度 入選句 (投稿総数千七百二十八句・一般投句数七百五十句)

特選 選者 大堀 武直

掬はれて家族となりし金魚かな 安八郡神戸町 高橋 日出美

縁日の露店で掬った金魚。高価な金魚ではない。家に持って帰り、水槽に入れ飼うことにした。餌を与え水を替えたりするうちに愛着を感じるようになった。金魚の健康にも気を使う。まさしく家族の一員である。

あめんぼのあめんぼを追ふ水輪かな 各務原市 清水 雅子

あめんぼ(みずすまし)は体長十五ミリほどで、六本の長い脚で水面をスイスイと走り回る。時に求愛か諍いか知らないが、追っ掛けあいをする。その一本一本の足許に小さな水輪ができる。情景のよく分る写生句である。

官司 禰宜巫女も茅の輪をくぐりけり 不破郡垂井町 久保田 絃義

夏越の祓。六月末に行なわれる夏の災害を祓う神事。神社では大きな茅の輪を鳥居や社殿の前にたて、参詣者はこれを潜って厄除けをする。この茅の輪を官司をはじめ神社関係者も一緒に潜ったところに、おかしみを感じる。

秀逸

一回転舌とあそびし水まんぢゆう 大垣市 藤井 早苗

ここだけの話 日傘の中で聞く 福井県福井市 三ツ山 しげ子

八月や琉球表拭けば鳴る 千葉県千葉市 安田 徳子

掛軸の鯉跳ねてゐる夏座敷 大垣市 早崎 美弥子

夕顔や「子供一一〇番の家」 大垣市 村田 通夫

大の字を小さく描きて昼寝の子 不破郡垂井町 中嶋 笑子

伽羅路を上手に煮ても一人かな 大垣市 伊藤 京子

故郷の祭太鼓は山へ打つ 東京都世田谷区 関戸 信治

父の日や風樹の嘆をせめて句に 愛知県豊田市 城山 憲三

七夕や平凡という願いごと 神奈川県藤沢市 門坂 螢

入選

麩校の大樹揺さぶり蟬時雨	養老郡養老町	田中	紫香
裾分けの先に思案の西瓜かな	養老郡養老町	田中	紫香
戦争を語り継ぐ会蟬しぐれ	大垣市	木村	一句
投函の音はねかえる炎天下	福井県福井市	三ツ山	ひろし
芋の露こぼして行きぬ朝の風	大垣市	川口	千代子
燕去ぬ苜のひとすぢ風にゆれ	大垣市	佐藤	すみ子
終戦忌義足の音に眠覚めけり	安八郡輪之内町	野村	照子
なつのひにむすめとこれたむすびのち	大垣市	保田	倫孝
飯盒のへこみも深し終戦日	大垣市	川瀬	幸子
揚花火火の見櫓の残る里	大垣市	鶴田	信子

入選

ごつごつの父の手の中初螢	不破郡垂井町	北村	廣美
石あらば全て灼け石ひろしま忌	大垣市	矢橋	郁子
跡取は畦草刈りに地藏盆	大垣市	今津	絹代
川拔ふ禰宜の木沓の音涼し	愛知県名古屋市	舘野	茂子
さくらんぼ受く老斑のたなごころ	大垣市	伊藤	京子
梅雨晴間棚田に透ける伊吹山	大垣市	伊藤	八重子
花南天両家そろひて宮まいり	大垣市	三輪	千恵子
木道を譲る会釈や風涼し	大垣市	佐久間	信子
腰痛に猫のポーズや今朝の秋	大垣市	名和	よちゑ
盆供養親に似た顔あちこちに	大垣市	河合	秋信

選者吟

猛暑日の籠りて手持無沙汰なり

武直